

2022 年度腐食防食学会 受賞者選定経過報告

表彰選考委員会
委員長 安住和久

本会では、腐食防食の分野における学術および技術の進歩発展に顕著な貢献をした会員に対して学会賞、腐食防食の分野における学術の進歩発展に顕著な功績をあげている者を講師として、会員の知識と興味を高める権威ある講演とする岡本剛記念講演賞、腐食防食の分野における学術の進歩発展に功労のある会員に対して学術功労賞、腐食防食の分野における技術の進歩発展に功労のある会員に対して技術功労賞、優秀な学術論文に対して論文賞、優れた技術に対して技術賞、優秀な若手の会員に対して進歩賞、加えて本部ならびに支部の事業発展に貢献した会員に対して功績賞、貢献賞を贈り表彰してきている。令和4年度で、学会賞は第25回(含む協会賞)、岡本剛記念講演賞は第26回、学術功労賞および技術功労賞は第7回、論文賞と技術賞は第43回、進歩賞は第36回となる。

本会の規程に従い、表彰選考委員会内に、学会賞選考委員会(委員長 安住和久)、岡本剛記念講演賞選考委員会(委員長 藤本慎司)、学術功労賞選考委員会(委員長 天谷賢治)、技術功労賞選考委員会(委員長 兒島洋一)、論文賞選考委員会(委員長 八代 仁)、技術賞選考委員会(委員長 加藤千明)、進歩賞選考委員会(委員長 加藤善大)を設け、功績賞、貢献賞については総務会にて、令和3年10月から令和4年1月にわたって慎重に審査を行ってきた。その結果、推薦された候補者から、学会賞1名、岡本剛記念講演賞1名、学術功労賞2名、技術功労賞1名、論文賞2件、技術賞1件、進歩賞2名、特別功労賞1名、功績賞2名及び貢献賞1名が選考された。

<学会賞>

金属材料の腐食に関する基礎研究と学会運営への貢献

西方 篤(東京工業大学名誉教授)



西方 篤

【略歴】

西方 篤君は昭和58年に東京工業大学大学院理工学研究科金属工学専攻博士課程を修了、昭和59年に米国アリゾナ州立大学博士研究員、昭和60年に東京工業大学精密工学研究所助手、昭和61年に同大学工学部助手、平成4年に工学部助教授、平成18年に同大学大学院理工学研究科准教授、平成22年に教授、平成28年に同大学物質理工学院教授を経て、令和3年から東京工業大学名誉教授。本会では、平成5年、平成7年、令和4年に腐食防食学会論文賞、平成27年に岡本剛記念講演賞を受賞し、「材料と環境」編集委員長、腐食防食学会副会長、会長などを歴任。

【業績】

西方 篤君は金属材料の腐食に関する基礎研究に長年従事し、多くの研究成果を挙げている。特に、大気環境、高温溶融塩環境そして燃料電池環境における材料の劣化に関する電気化学的研究は高い評価を受け、その研究論文は多くの腐食研究者により引用されている。また、本会では、材料と環境2008、材料と環境2014の大会実行委員長、「材料と環境」誌の編集委員長(2015-2016)、本会副会長(2017-2018)、本会会長(2019-2020)を歴任し、本会の発展に大きく貢献してきた。これらの功績は、腐食防食学会学会賞に値するものと判断する。

岡本剛記念講演

水は便利で恐ろしい —高温高圧の「水」による構造材料の劣化—

渡邊 豊(東北大学)



渡邊 豊

【略歴】

渡邊 豊君は昭和 60 年 3 月東北大学工学部機械工学第二学科卒業，平成 3 年 3 月東北大学大学院工学研究科機械工学第二専攻博士課程後期 3 年の課程修了。同年 4 月日本学術振興会特別研究員(PD)，平成 4 年 6 月マサチューセッツ工科大学博士研究員，平成 5 年 5 月東北大学講師(工学部)，平成 8 年 4 月東北大学助教授(工学部)，平成 20 年 4 月東北大学教授(工学研究科)となり現在に至る。平成 26 年 11 月より東北大学総長特別補佐，平成 28 年 12 月より東北大学原子炉廃止措置基盤研究センター長を兼務。腐食防食協会では，コロージョン・セミナー実行委員長，東北支部長，理事などを歴任。日本機械学会研究奨励賞(平成 7 年)，日本材料学会学術奨励賞(平成 9 年)，腐食防食学会技術賞(平成 28 年)，日本保全学会論文賞(令和元年)，日本原子力学会フェロー(令和 3 年)など。

【選考理由】

渡邊 豊君は軽水炉を始めとする原子力システムならびに種々の物質-エネルギー変換プラントを対象として，システムの保全を高度化し，信頼性の一層の向上に貢献するため，構造材料の経年劣化機構の解明とそれに立脚した対策技術の開発など，材料工学および機械工学を基盤とした学際研究を行っており，その成果は，構造物の保全工学の観点から非常に優れたものであり，腐食防食分野における学術の進歩発展に大きく貢献し，また，それらに関し本学会での発表，講演や論文執筆等を多岐に渡り行ってきた。また，原子力関係の国際規格，国内規格あるいは学会規格の作成にもご尽力されており，これまでの一連の研究は，「腐食防食分野における学術の進歩発展に顕著な貢献をしている者を講師として，会員の知識と興味を高める権威ある講演とする。」との本賞の主旨と合致し，岡本剛記念講演をお願いすべき最適のものと考えます。

<学術功労賞①>

大気環境下における鉄鋼材料の耐食性評価に関する研究

片山英樹(国立研究開発法人物質・材料研究機構)



片山英樹

【略歴】

片山英樹君は平成 8 年 3 月 東京工業大学大学院理工学研究科金属工学専攻博士課程修了後，東京工業大学工学部助手を経て同年 9 月，科学技術庁金属材料技術研究所(現 国立研究開発法人物質・材料研究機構)に入所，鉄鋼材料の大気腐食に関する研究に従事し，現在に至る。平成 16 年 5 月，腐食防食学会進歩賞を受賞。

【選考理由】

片山英樹君は一貫して大気環境下における鉄鋼材料の耐食性評価に関する研究に従事し，多大な功績をあげてい

る。大気暴露試験および大気腐食モニタリング研究から、大気腐食では結露時の腐食挙動が重要であることを見だし、試験片表面近傍の気温と相対湿度、試験片の温度の時間変化を再現することで、実験的に鉄鋼材料の大気腐食シミュレーションに成功している。また、最近では機械学習を活用して環境データから大気環境における鉄鋼材料の腐食を予測する技術を開発し、さらに地域レベルから構造物レベルでの腐食予測にも意欲的に取り組んでいる。これらの成果は、鉄鋼材料の大気腐食評価や現象解明に対して学術的な面から著しい貢献があることから、学術功労賞を授与するに相応しいと判断する。

<学術功労賞②>

金属材料表面のその場観察のための微小電気化学測定法の開発と適用

伏見公志(北海道大学)



伏見公志

【略歴】

伏見公志君は平成4年3月北海道大学大学院工学研究科応用化学専攻修士課程終了後、同年4月東洋製罐株式会社に入社、東洋製罐グループ総合研究所に勤務後、平成7年8月より北海道大学工学部助手、平成9年4月より北海道大学大学院工学研究科助手、平成19年4月より北海道大学大学院工学研究科助教、平成20年4月より北海道大学大学院工学研究科准教授、平成22年4月より(組織名称変更に伴い)北海道大学大学院工学研究院准教授、現在に至る。この間、平成13年12月に北海道大学より博士(工学)を授与、平成14年4月から平成15年7月まで独国マックスプランク鉄鋼研究所客員研究員を勤める。

平成14年5月腐食防食協会進歩賞、平成29年5月腐食防食学会論文賞を受賞。平成22年10月から平成29年9月まで出版委員会委員長、平成31年3月から令和3年2月まで理事。

【選考理由】

伏見公志君は走査型電気化学顕微鏡、液中イオン銃法、マイクロインデンテーション、微小液滴セル法、電気化学エリプソ顕微鏡など様々な微小電気化学測定法を開発し、金属材料表面で起こる腐食現象、特に不働態のその場観察に適用、腐食反応機構および速度論の精緻な数理モデルの構築を試みている。指導学生の当学会での発表や産学連携なども多く、本会の進歩賞、論文賞を受賞している。また、出版委員会委員長、理事などとして活動し、腐食防食学会へ大きく貢献していることから、学術功労賞を授与するに相応しいと判断する。

＜技術功労賞＞

高温腐食環境におけるプラントの長寿命化・高効率化への貢献

野口 学(株式会社荏原製作所)



野口 学

【略歴】

野口 学君は平成 8 年 3 月北海道大学大学院金属工学専攻博士課程終了後、同年 4 月、株式会社荏原製作所に入社し、荏原総合研究所に配属。平成 21 年荏原製作所に異動、平成 29 年に同社技術・研究開発統括部に異動。この間、廃棄物・バイオマス発電プラントにおける高温腐食に関わる研究に従事し、耐食性材料の開発や寿命予測・長寿命化などの技術開発に取り組み、現在に至る。平成 16 年および令和 3 年度腐食防食学会技術賞受賞、平成 26 年～27 年理事(庶務)、平成 29 年～30 年出版委員会委員長を歴任。令和 3 年腐食防食専門士認定。

【選考理由】

野口 学君は一貫して高温腐食にかかわる研究に従事し、耐高温腐食性金属材料および長期腐食損失推定技術を開発してきた。この間の開発技術は、国内初となる蒸気温度 400℃級廃棄物発電ボイラの操業安定化、廃棄物発電ボイラの高温化による高効率化として社会実装され、1000℃級空気加熱器用新合金開発、および流動床ボイラ向け耐高温腐食摩耗コーティング技術の開発で当会の技術賞を 2 回受賞(平成 16 年、令和 3 年)している。こうした成果は、投稿論文、講演会、セミナー等で積極的に公表され、技術の普及と後進の育成に生かされている。さらに、当会においては、理事、出版委員会委員長、編集委員、高温材料システム分科会委員、環境・エネルギー小委員会委員などを歴任し、学会運営への貢献も顕著である。以上のように、野口 学君は社会実装、成果公表、教育活動等の点から、腐食防食の分野における技術の進歩発展に多大に寄与しており、技術功労賞の受賞に相応しいと判断した。

＜論文賞①＞

ICP-MS と組み合わせた溶液フローセルによる白金およびパラジウム溶解速度の時間分解測定

材料と環境, 第 69 巻 8 号 221 頁～230 頁

大井 梓(東京工業大学) 多田英司(東京工業大学)
 西方 篤(東京工業大学名誉教授)



大井 梓



多田英司



西方 篤

【略歴】

大井 梓君は平成 29 年 3 月東京工業大学大学院理工学研究科物質科学専攻博士後期課程修了、博士(工学)取得。同年 4 月より東京工業大学物質理工学院助教、現在に至る。平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月まで、独立行政法人日本学術振興会特別研究員(DC2)。本会では、平成 29 年 10 月から若手コンソーシアム WG1 の委員を務める。

多田英司君は平成10年3月東京工業大学大学院理工学研究科金属工学専攻博士後期課程修了後、同年4月秋田大学工学資源学部助手、平成19年同准教授、平成23年東京工業大学大学院理工学研究科准教授を経て、令和3年4月より東京工業大学物質理工学院・材料系教授、現在に至る。その間オハイオ州立大学博士研究員、ブルゴーニュ大学客員研究員。本会では、編集委員、評議員、理事、コロージョン・セミナー企画委員長などを歴任し、平成17年三澤記念賞、平成19年進歩賞を受賞。

西方篤君は昭和58年に東京工業大学大学院理工学研究科金属工学専攻博士課程を修了、昭和59年に米国アリゾナ州立大学博士研究員、昭和60年に東京工業大学精密工学研究所助手、昭和61年に同大学工学部助手、平成4年に工学部助教授、平成18年に同大学大学院理工学研究科准教授、平成22年に教授、平成28年に同大学物質理工学院教授を経て、令和3年から東京工業大学名誉教授。本会では、平成5年、平成7年、令和4年に腐食防食学会論文賞、平成27年に岡本剛記念講演賞を受賞し、「材料と環境」編集委員長、腐食防食学会副会長、会長などを歴任。

【選考理由】

著者らは溶液フローセルと誘導結合プラズマ質量分析計を組み合わせた白金およびパラジウムの腐食モニタリングシステムを構築し、白金に対し $0.13 \text{ pg cm}^{-2} \text{ s}^{-1}$ 、パラジウムに対して $0.39 \text{ pg cm}^{-2} \text{ s}^{-1}$ の溶解速度の検出を可能とした。さらにこの手法を用いて、白金やパラジウムが、従来認められていた電位よりさらに低い電位でも溶解していることを見出した。これらの成果は、燃料電池の技術開発にとって重要であり、学術的にも高く評価されることから、論文賞にふさわしいと判断した。

<論文賞②>

大気腐食環境下における鋼材の腐食挙動および水素侵入挙動の同時モニタリング

材料と環境、第69巻12号351頁～358頁

原田宏紀(JFEスチール株式会社) 面田真孝(JFEスチール株式会社)
大塚真司(JFEスチール株式会社) 河野崇史(JFEスチール株式会社)



原田宏紀



面田真孝



大塚真司



河野崇史

【略歴】

原田宏紀君は平成23年3月九州大学大学院材料物性工学専攻修士課程修了後、同4月にJFEスチール株式会社に入社。スチール研究所に所属し、金属材料の腐食や水素脆化に関する基礎研究、表面処理鋼板に関する研究開発に従事し、現在に至る。

面田真孝君は平成20年3月早稲田大学理工学術院環境資源及物質材料理工学専攻修士課程を修了し、同年4月JFEスチール株式会社に入社。スチール研究所耐食・防食研究部に配属、造船用耐食鋼に関する研究に従事した。平成24年4月より界面科学研究部に異動、令和3年4月から部統合により、マテリアルズインテグレーション研究部に名称変更、鉄鋼材料の大気腐食の基礎研究に従事、この間、同年3月に東北大学大学院理工学研究科知能デバイス材料学専攻博士課程を修了し、現在に至る。本会では、平成28～29年度に材料と環境編集員、平成29年度～関東支部幹事を務める。令和3年5月、腐食防食学会進歩賞を受賞。

大塚真司君は平成13年3月大阪大学大学院工学研究科(マテリアル応用科学専攻)修士課程修了後、同年4月日本鋼管株式会社に入社し、総合材料技術研究所へ配属。JFEスチール株式会社移行後のスチール研究所において、自動車分野を中心とする表面処理鋼板の材料開発や腐食評価技術開発に従事し、現在に至る。この間令和2年3月東京工業大学大学院(物質理工学院材料コース)博士課程後期課程修了。

河野崇史君は平成12年3月大阪大学大学院工学研究科応用物理学専攻博士課程修了、博士(工学)を取得。日本学術振興会特別研究員を経て、平成13年4月NKKに入社し基盤技術研究所に配属。平成15年よりJFEスチール株式会社スチール研究所に所属、鉄鋼材料の解析技術に関する研究および表面処理鋼板を中心とした材料の研究開発に従事し現在に至る。この間、平成20年10月より平成22年10月までドイツマックス・プランク鉄鋼研究所客員研究員。平成29年度、腐食防食学会論文賞を受賞。

【選考理由】

大気暴露環境において、鋼の腐食挙動と水素侵入速度を同時にモニタリングし、環境因子との関係性を明らかにした論文で、腐食速度と水素侵入速度は、鋼に塩分が付着することで加速されるが、湿度依存性は異なることを実証した。その違いは鋼表面の水膜の厚さと塩濃度に関係し、水素侵入は塩濃度が高くなり、鉄(III)イオンの加水分解によって鋼表面のpHが低下するときに加速されると考察し、この機構が生成した錆層の構造と矛盾しないことを示した。これらの知見は、水素脆化対策に有用なことはもちろん、学術的にも高く評価されることから、論文賞にふさわしいと判断した。

＜技術賞＞

錆残存面適性を有する水性下塗り塗料の開発とその実用化

太田伶美(関西ペイント株式会社) 土岡育朗(関西ペイント株式会社)
安田 陽(関西ペイント株式会社) 松田英樹(関西ペイント株式会社)



太田伶美



土岡育朗



安田 陽



松田英樹

【略歴】

太田伶美君は平成19年3月弘前大学大学院物質理工学専攻博士前期課程修了。同年4月関西ペイント株式会社入社。R&D本部CM研究所へ配属となり、自動車用塗料や汎用防食塗料の基礎研究、その後、技術開発本部にて汎用防食塗料全般の開発、汎用塗料本部にて防食塗料の設計・渉外業務に従事し、現在に至る。

土岡育朗君は平成21年3月同志社大学工学部卒業。同年4月関西ペイント株式会社入社。防食製品技術部へ配属。その後、技術開発本部にて汎用防食塗料全般の開発、汎用塗料本部にて防食塗料の設計・渉外業務に従事し、現在に至る。

安田 陽君は平成28年3月東北大学大学院工学研究科応用化学専攻修了。同年4月関西ペイント株式会社入社。技術開発部へ配属され、防食塗料の開発業務に従事。令和元年10月より、自動車塗料本部防錆材料技術部へ配属となり、自動車用電着塗料の開発・渉外業務に従事し、現在に至る。

松田英樹君は平成6年3月立教大学理学部卒業。同年4月関西ペイント株式会社入社。工業塗料本部技術部へ配属。その後、技術開発本部、R&D本部にて工業用・汎用防食塗料全般の開発及び塗装鋼材の腐食防食機構等の研究開発、汎用塗料本部にて防食塗料の設計・渉外業務に従事。平成29年9月広島大学大学院にて博士(工学)取得。令和元年4月より同社研究開発部門・技術開発本部にて特級研究員に着任し、現在に至る。平成27年5月、腐食防食学会技術賞。平成31年2月より令和2年2月まで、腐食防食学会庶務理事。

【選考理由】

本技術は、従来必要であった錆残存面の剥離等の素地調整にかかるコストを低減出来る技術であり、今後増大する橋梁等の社会インフラの高経年化に適用でき社会的ニーズも高い。

また、本技術を学術論文として報告しており、その科学的根拠を明確にするとともに、その施工実績も十分に有している。

本技術内容は腐食防食学会技術賞としてふさわしいものであり、技術賞として推薦する。

<進歩賞①>

腐食生成物と金属カチオンによる金属材料の腐食機構の解明

大谷恭平(国立研究開発法人日本原子力研究開発機構)



大谷恭平

【略歴】

大谷恭平君は平成24年3月北海道大学大学院工学院材料科学専攻修士課程修了。同年4月東洋製罐株式会社 埼玉工場製造第二課、同品質課、テクニカル本部基盤技術部において製缶事業に従事し、平成26年退職。平成27年4月に北海道大学大学院工学院材料科学専攻博士後期課程に入学、溶液中の金属カチオンに着目した腐食研究に従事し、平成30年3月博士(工学)取得。同年4月に日本原子力研究開発機構に入所し、防食材料技術開発グループにおいて主に福島第一原子力発電所の原子炉格納容器内部環境に着目した腐食および防食研究に従事し、現在に至る。

【選考理由】

大谷恭平君は気水界面に形成した多層構造の腐食生成物は鋼の腐食を促進すること、ある種の金属カチオンは金属材料の腐食を抑制することを見出している。また、それらの腐食抑制機構の解明に尽力してきている。これらの研究成果を「材料と環境」誌へ発表するとともに、腐食防食学会の講演大会などに数多く公表しており、本会への学術的および技術的貢献は極めて大きい。今後、腐食防食分野を担う人材としてその活躍が大いに期待される。これらの理由により、大谷恭平君を進歩賞の授与にふさわしいものと判断し、選考委員の全員一致でここに推薦する。

<進歩賞②>

極微量イオンのリアルタイム測定法を駆使した貴金属合金の溶解機構解明に関する研究

大井 梓(東京工業大学)



大井 梓

【略歴】

大井 梓君は平成29年3月東京工業大学大学院理工学研究科物質科学専攻博士後期課程修了、博士(工学)取得。同年4月より東京工業大学物質理工学院助教、現在に至る。平成28年4月から平成29年3月まで、独立行政法人日本学術振興会特別研究員(DC2)。本会では、平成29年10月から若手コンソーシアムWG1の委員に就任。

【選考理由】

大井 梓君は溶液フローセルおよび誘導結合プラズマ質量分析法を組み合わせた測定法を構築し、Ptおよび添加元素の溶解量のオンライン測定に成功している。また、この測定法を駆使して、燃料電池の作動に伴いPt合金から溶解するPtおよび添加元素の電位域を明らかにするとともに溶解機構を提案している。これらの研究成果は本誌へ発表されており、本会の講演大会でも数多く公表されていることから、本会への学術的および技術的貢献は大きい。さらに、講演大会における座長および実行委員など学会運営にも貢献をしている。今後、腐食防食分野を担う人材として活躍が大いに期待される。これらの理由により、大井 梓君を進歩賞を授与するにふさわしいものと判断し、選考委員の全員一致でここに推薦する。

＜特別功労賞＞



荒牧國次

【略歴】

荒牧國次君は昭和30年3月慶応義塾大学大学院工業研究科応用化学専攻修士課程修了、同年4月同大学工学部助手に就任、昭和34年4月専任講師、昭和38年10月助教を経て、昭和46年4月教授に就任、昭和56年慶応義塾大学理工学部化学科教授、昭和62年より平成8年まで慶応義塾評議員、平成9年3月定年退職、平成9年4月慶応義塾大学名誉教授、現在に至る。

【業績】

荒牧國次君は昭和27年4月より慶応義塾大学工学部藤井晴一教授の研究室において腐食抑制剤研究に従事、70年間腐食抑制剤の基礎的研究を続けてきた。昭和41年工学博士、昭和41～43年テキサス大学のN. Hackermann教授の研究室において博士研究員、この時の研究が非常に多くの他の論文に引用された。このほか、腐食抑制剤の作用機構や腐食のアノード反応と硬い軟らかい酸塩基の法則の関係、自己組織化膜の化学修飾による超薄二次元重合体保護皮膜の作製、表面増強ラマン散乱分光法、非水溶液中の金属の腐食と抑制などの研究に及んでいる。今までに、約260編の論文を国内外の学術雑誌や国際会議に投稿したが、アメリカ化学会の調査では、その内約130編が約3500編の他の論文に引用されている。この引用論文数は研究内容の質の高さを表し、学術的に貢献し、高く評価される。

また、本学会の事業運営に当たっては編集委員、評議員、出版委員長、理事、監事などを歴任し、永年にわたる顕著な功績によって平成12年名誉会員、平成29年学会賞を受賞している。

【選考理由】

荒牧國次氏は昭和27年、大学での卒業研究を皮切りに、以降約70年という長期にわたり、一貫して腐食抑制剤の開発、応用とその腐食抑制機構についての基礎研究を継続され、現在も精力的に論文を執筆、投稿している。中でもとりわけ、硬いおよび軟らかい酸塩基の法則を取り入れた、腐食抑制剤の化学吸着に関する独創的な視点からの研究は、この学問分野に多大な影響を及ぼしている。アメリカ化学会の調査によると、これまでに荒牧氏が発表された約260編の論文のうち、133編が延べ3540編の論文に引用されている。この事実は、荒牧氏の研究がこの学問分野の進歩に広く寄与していることを裏付けている。本学会誌「材料と環境」に対しては、20編以上の解説と約60編の論文を執筆、投稿され、講演大会への参加および企業への技術指導などと合わせて、貴学会の発展に大いに貢献している。

また、貴学会の事業運営にあたっては評議員、出版委員長、理事、監事などの要職を歴任され、永年にわたる顕著な功績によって平成29年、学会賞を受賞している。

このように、貴学会の事業および運営について特別の功労があり、特別功労賞受賞に相応しいと認められることから、荒牧國次氏を表彰候補者として、強く推薦する。

＜功績賞＞



木村光男

【略歴】

木村光男君は昭和56年3月、大阪大学大学院工学研究科溶接工学専攻博士前期課程修了後、同年4月、川崎製鉄株式会社(現JFEスチール株式会社)に入社、技術研究所に配属され、エネルギー開発分野を中心に、鉄鋼材料の腐食、水素脆性のメカニズムの解明に関する研究、および新材料開発を担当。平成27年8月に退社後、同年9月に東京大学生産技術研究所基礎系部門の特任教授に就任、水素エネルギー社会構築の大きな柱となる燃料電池自動車の普及に向けて、高圧水素環境下で使用される材料の水素適合性評価手法の確立と国際規格化等に取り組み、現在に至る。本会では理事、中部地区支部長、副会長、監事等を歴任。平成29年論文賞受賞。



大塚伸夫

【略歴】

大塚伸夫君は昭和 55 年 3 月 京都大学大学院理学部化学専攻修士課程修了後、同年 4 月、住友金属工業株式会社に入社し、中央技術研究所に配属され、ボイラチューブ用材料の水蒸気酸化に関する研究に従事し、現在に至る。平成 25 年度腐食防食学会技術賞(共同受賞)、令和元年度腐食防食学会学会賞を受賞。等々

<貢献賞>

東 英樹

【略歴】

東 茂樹君は昭和 60 年 3 月名古屋大学化学専攻修了、同年 4 月から住友金属工業株式会社にて耐食鉄鋼材料の研究開発、平成 11 年から 12 年新エネルギー・産業技術総合開発機構にて石炭液化技術開発、平成 13 年から住友金属テクノロジー株式会社にて腐食防食に係る受託研究・試験に従事し、現在に至る。平成 16 年姫路工業大学にて博士(機械工学)、平成 28 年腐食防食専門士、平成 30 年技術士(金属部門)を取得。平成 8 年および平成 11 年日本金属学会技術開発賞、平成 10 年大河内記念技術賞を受賞。本会では、平成 23 年から関西支部幹事、令和 2 年～3 年理事。